

お か ぎ き こ ふ ん ぐ ん
岡崎古墳群 2

岡崎古墳群整備事業に伴う発掘調査

2024 年度

鹿児島県鹿屋市教育委員会

序文

平成から令和へ。時代が変わったと同時に岡崎古墳群整備事業はスタートを切りました。少子高齢化が劇的に進む中、鹿屋市に暮らす市民はもとより、鹿屋市を応援してくださる人々にとって、ふるさとに残る本市を代表する古墳群である岡崎古墳群が国指定史跡となることは大きな目標です。その大きな目標に向かい、令和元年度から5年度にかけて岡崎古墳群検討委員会の委員の皆さまからのお力添えをいただきながら岡崎古墳群の発掘調査を行い、新たな知見や謎に触れることとなりました。

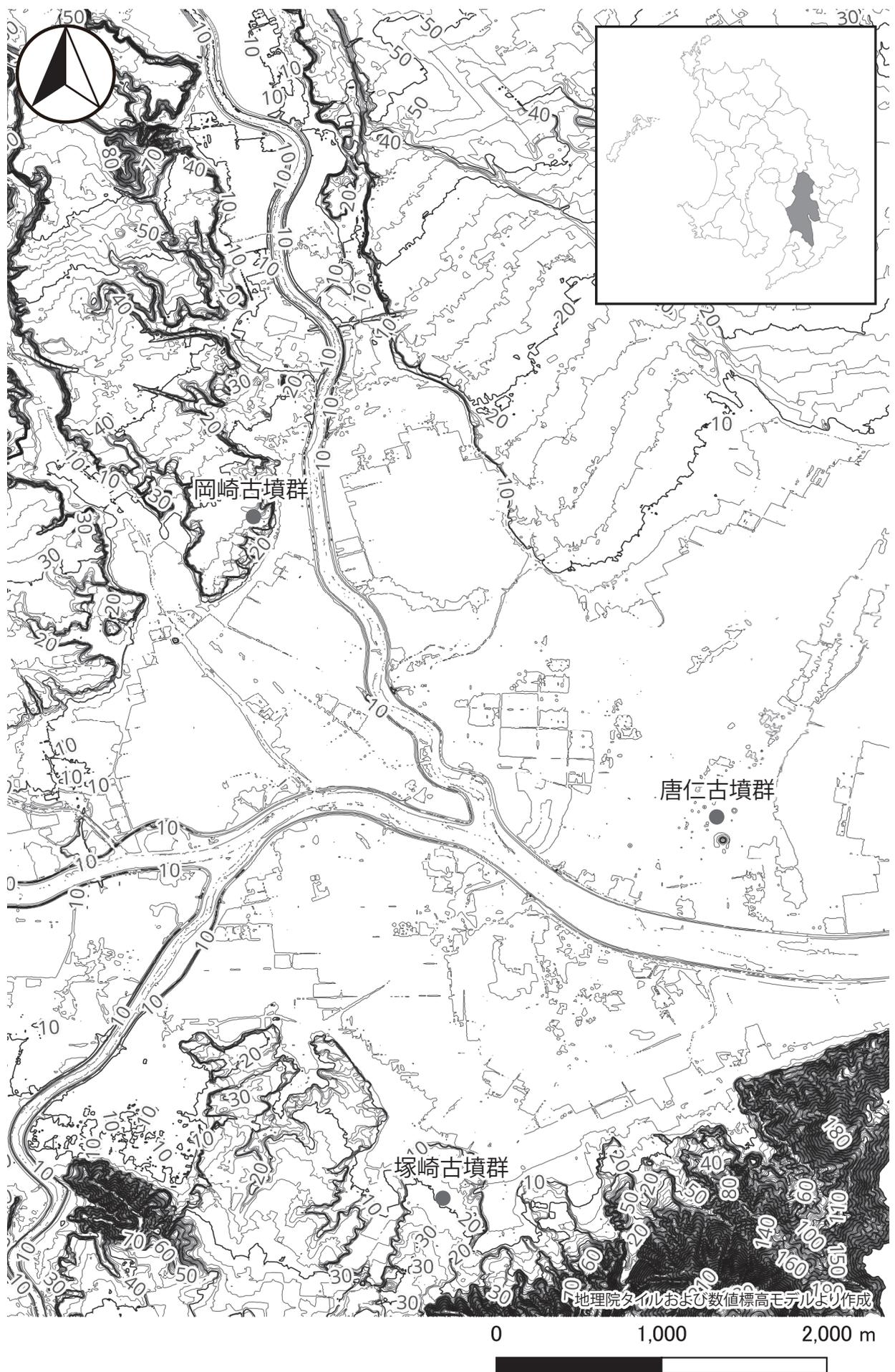
岡崎古墳群の国指定へはまだ道半ばですが、発掘調査の一区切りとして今回の刊行に至りました。

本書が広く活用され、多くの方に岡崎古墳群の魅力と価値を知っていただけたることを願います。

鹿屋市教育委員会
教育長 中野健作

抄録

ふりがな	おかざきこふんぐん							
書名	岡崎古墳群 2							
副書名	岡崎古墳群整備事業に伴う発掘調査							
シリーズ名	鹿屋市埋蔵文化財調査報告書							
シリーズ番号	93							
編著者名	河野賢太郎 郷原麻鈴							
編集機関	鹿屋市教育委員会							
所在地	〒893-8501 鹿児島県鹿屋市共栄町 20 番 1 号 TEL 0994-31-1167 FAX 0994-63-3400							
発行年月日	2025 年 3 月 28 日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	発掘期間	発掘面積 ㎡	発掘原因
		市町村	遺跡番号					
おかざきこふんぐん 岡崎古墳群	かこしまけんかのやししくらちょう 鹿児島県鹿屋市串良町	203	314	31° 23' 08"	130° 57' 25"	20200217 ～ 20200303	537	確認調査
						20210201 ～ 20210209	172	
						20210220 ～ 20220228	442	
						20230117 ～ 20230324	96	
						20230116 ～ 20230227	153	
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項			
岡崎古墳群	古墳	古墳時代	古墳周溝	土器、須恵器	盛土を失った古墳の周溝を確認した。周溝内には地下式横穴墓が構築されるものがある。			
			地下式横穴墓	土器、須恵器	古墳周溝の利用にとどまらず、単独で構築された群の存在が明らかとなった。			
要約	<p>岡崎古墳群内では、古墳周溝を利用して地下式横穴墓が構築される例が知られていた。この状況は 4 号墳の発掘調査により日本で初めて明らかとなった事例であり、のちに実施された 18 号墳、15 号墳の発掘調査でも同様の例としての発見が続き、古墳と地下式横穴墓の共存は岡崎古墳群の特徴の一つと考えられる。</p> <p>令和元年から 5 年度にかけて行った発掘調査では、古墳周溝を利用せずに単独で地下式横穴墓が構築され、それらの地下式横穴墓が群をなすエリアが存在するという、これまでの岡崎古墳群内での地下式横穴墓のあり方に一石を投じるものとなった。</p> <p>また、消失墳 2 基を再発見した。今期の調査で再発見した 2 基の古墳の周溝にも地下式横穴墓が構築されている。</p>							



第1図 遺跡位置及び周辺主要古墳群

例言

本報告書は、岡崎古墳群整備事業に伴う岡崎古墳群の埋蔵文化財発掘調査報告書である。また総括報告書へ向けた中間報告の要素を含む。

岡崎古墳群は鹿児島県鹿屋市串良町岡崎に所在する。

発掘調査は、令和元年度から令和5年度まで実施し、整理・報告書作成作業は、令和4年度から令和6年度まで鹿屋市文化財センターが実施した。

発掘調査での実測・写真撮影は担当者が実施した。

本書の遺物番号はすべて通し番号で、それぞれ本文、挿図、表図版の番号と一致する。

本書に使用したレベル値は海拔絶対高で、使用した方位はすべて磁北である。

使用した土色は『新版 標準土色帖』（1970 農林水産省技術会議事務局監修）に基づく。

遺物注記等で用いた遺跡記号は「O Z K」である。

地形測量図は株式会社埋蔵文化財サポートシステムに委託した。

出土遺物の実測は担当者の指導のもと作業員が実施し、遺物実測の一部を株式会社埋蔵文化財サポートシステムに委託した。

写真撮影は、鹿屋市文化財センター写場にて担当者が実施した。

本書の執筆・編集は担当者が実施した。

本報告書に係る出土遺物及び実測図・写真等の記録は鹿屋市文化財センターが一括保存し、展示・活用を図る予定である。

目次

序文	i	第3項 検討委員会の初年度不設置	73
抄録	ii	第4項 周知活動について	73
例言	iv		
目次	v		
表目次	v		
挿図目次	v		
図版目次	vi		
第1章 経緯	1		
第1節 調査に至る経緯	1		
第2節 調査概要	1		
第1項 調査概要	1	第1表 周辺遺跡一覧	8
第2項 調査体制	1	第2表 令和3～5年度地下式横穴墓	39
第3節 各年度の調査概要	2	第3表 遺物観察表(1)	64
第2章 岡崎古墳群について	4	第4表 遺物観察表(2)	65
第1節 位置と環境	4	第5表 遺物観察表(3)	66
第1項 地理的環境	4	第6表 遺物観察表(4)	67
第2項 歴史的環境	4	第7表 地下式横穴墓一覧	71
第2節 既往調査成果	4		
第1項 研究史	4		
第2項 発掘調査	6		
第3節 周辺遺跡と周知の埋蔵文化財包蔵地	6		
第1項 岡崎古墳群	6	第1図 遺跡位置及び周辺主要古墳群	iii
第2項 周辺遺跡	6	第2図 古墳分布図	5
第4節 古墳の現状(古墳カルテ)	6	第3図 周辺遺跡	7
第3章 検討委員会	31	第4図 令和以降トレンチ位置図	40
第1節 設置目的と設置時期	31	第5図 令和元年度調査区平面図	41
第2節 参加者	31	第6図 出土遺物(1)	42
第3節 検討の概要	31	第7図 出土遺物(4)	42
第4章 発掘調査	36	第8図 出土遺物(2)	43
第1節 発掘調査の方法	36	第9図 出土遺物(3)	44
第2節 基本層序	36	第10図 令和2年度調査区平面図	45
第3節 調査年度ごとの概況	36	第11図 出土遺物(5)	46
第4節 遺構と遺物	37	第12図 出土遺物(6)	47
第1項 古墳周溝	37	第13図 出土遺物(7)	48
第2項 地下式横穴墓	38	第14図 令和3年度トレンチ配置図	49
第3項 遺物	38	第15図 21号、23号地下式横穴墓遺物出土状況	50
第5章 中間まとめ	68	第16図 14号～18号地下式横穴墓及び遺物出土状況(47～50)	51
第1節 成果	68	第17図 出土遺物(8)	52
第1項 地下式横穴墓群	68	第18図 出土遺物(9)	53
第2項 古墳の再発見	68	第19図 出土遺物(10)	54
第2節 課題	69	第20図 出土遺物(11)	55
第1項 遺跡の範囲	69	第21図 22号地下式横穴墓	56
第2項 各古墳の特定	69	第22図 24号・25号地下式横穴墓	56
第3項 出土遺物	69	第23図 R3_T3 遺物出土状況及び地下式横穴墓	57
第4項 遺跡の本質的価値	73	第24図 令和4年度トレンチ配置図及び地下式横穴墓竪坑(5号墳周辺)	58
第3節 反省点	73		
第1項 基本的情報の不足	73		
第2項 調査精度の不足	73		

第 25 図	令和 4 年度トレンチ配置図 (10 号～ 14 号墳)	58	図版 29	12 号墳頂からの 14 号 (左奥) 11 号墳 (右) (R4)	84
第 26 図	7 号・8 号地下式横穴墓	59	図版 30	11 号墳調査前 (R4)	85
第 27 図	出土遺物 (12)	60	図版 31	14 号墳調査前 (R4)	85
第 28 図	出土遺物 (13)	61	図版 32	11 号墳トレンチ状況 (R4)	85
第 29 図	令和 5 年度トレンチ配置図 (R1 と合成)	62	図版 33	10 号墳五輪塔 (1) (R4)	86
第 30 図	出土遺物 (14)	62	図版 34	10 号墳五輪塔 (2) (R4)	86
第 31 図	21 号墳・22 号墳復元図 (推定)	63	図版 35	10 号墳五輪塔 (3) (R4)	86
第 32 図	古墳及び地下式横穴墓分布図	70	図版 36	9 号地下式横穴墓検出状況 (R5)	87
第 33 図	4 号墳周辺古墳位置及び規模	72	図版 37	21 号墳周溝 (R5)	87
第 34 図	岡崎古墳群ゾーニング案	74	図版 38	21 号墳周溝 (R5)	88
			図版 39	11 号地下式横穴墓 縦坑確認状況 (R5)	88

図版目次

図版 1	遺構状土色変化 (R1 東側)	75	図版 40	11 号地下式横穴墓閉塞部材 (R5)	88
図版 2	遺構状土色変化 (R1 西側) 21 号・22 号墳一部	75	図版 41	22 号墳周溝確認状況 (R5)	89
図版 3	土器集中地点 (R1)	75	図版 42	22 号墳周溝及び 12・13 号地下式横穴墓 (R5)	89
図版 4	土器集中状況 (R1)	76	図版 43	13 号地下式横穴墓 縦坑土層断面 (R5)	89
図版 5	調査区全景 (R2)	76	図版 44	出土遺物 (1)	90
図版 6	遺構状土色変化 (R2)	76	図版 45	出土遺物 (2)	91
図版 7	遺構状土色変化 (R2)	77	図版 46	出土遺物 (3)	92
図版 8	遺物 32、33 出土状況 (R2)	77	図版 47	出土遺物 (4)	93
図版 9	同上拡大 (R2)	77	図版 48	出土遺物 (5)	94
図版 10	土器集中状況 (R2)	78	図版 49	出土遺物 (6)	95
図版 11	遺物 35 他出土状況 (R2)	78	図版 50	出土遺物 (7)	96
図版 12	遺物 32 出土状況 (R2)	78	図版 51	出土遺物 (8)	97
図版 13	15～17 号地下式横穴墓 検出状況 (R3)	79	図版 52	出土遺物 (9)	98
図版 14	14 号地下式横穴墓 (R3)	79			
図版 15	14 号地下式横穴墓遺物 出土状況 (R3)	79			
図版 16	23 号地下式横穴墓 土器集中状況 (R3)	80			
図版 17	24 号地下式横穴墓 (R3)	80			
図版 18	22 号地下式横穴墓 (R3)	81			
図版 19	遺物 49, 50 出土状況 (R3)	81			
図版 20	20 号地下式横穴墓 (R3)	81			
図版 21	5 号墳調査前 (R4)	82			
図版 22	5 号墳 T1 (R4)	82			
図版 23	5 号墳 T2 墳頂から (R4)	82			
図版 24	5 号墳 T3 (R4)	83			
図版 25	7 号地下式横穴墓縦坑 (R4)	83			
図版 26	7 号地下式横穴墓土塊 (R4)	83			
図版 27	8 号地下式横穴墓検出状況 (R4)	84			
図版 28	8 号地下式横穴墓縦坑 確認状況 (R4)	84			

第1章 経緯

第1節 調査に至る経緯

古くは大正時代にその存在が報告され、域内に古墳と地下式横穴墓の存在が知られていた鹿屋市申良町岡崎古墳群では、昭和60年の申良町教育委員会が主体となり、鹿児島県教育庁文化財課が調査担当として行った4号墳の発掘調査において古墳周溝を利用して地下式横穴墓が構築される例として全国初の発見があり、学史上大変重要な遺跡として認知されてきた。

旧申良町はその後に数回の発掘調査を実施し、4号墳周辺にも古墳の広がりがあることや、15号墳の埋葬主体に花崗岩製組合式石棺が用いられ、ヒスイ製勾玉、長方板革綴短甲片を確認するなど、本市を代表する古墳群としての認識を一層深めた。

2000年代に入り、鹿児島大学総合研究博物館橋本達也による18号墳、20号墳の発掘調査で、隣接する唐仁古墳群(東申良町)や塚崎古墳群(肝付町)といった古墳群との関係性や、地下式横穴墓の被葬者像のあらたな知見を示し、岡崎古墳群が本地域の古墳時代解明において欠くことのできない存在であることが確認された。

発掘調査の成果を受け、2006年(H18)の旧申良町文化財保護審議会で「岡崎古墳群の国史跡指定を目指すべき」とした建議がなされた。また2018年(H30)には鹿屋市文化財保護審議会において岡崎古墳群の国指定を目指すべきとした旧申良町の建議を改めて確認するに至った。

鹿屋市ではこの重要かつ貴重な古墳群を保護し、後世への継承を確実なものとするべく国史跡指定を目指すこととした。

第2節 調査概要

第1項 調査概要

鹿屋市は、旧申良町文化財保護審議会の建議に基づき、岡崎古墳群の文化財的価値を明らかにするため、文化庁の補助事業(国宝重要文化財等保存・活用事業補助金)を活用し、令和元年度から岡崎古墳群の全体的な範囲や保存状況等の調査に着手した。

第2項 調査体制

事業主体 鹿屋市
調査主体 鹿屋市教育委員会
調査責任者 教育長 中野 健作
事務担当 生涯学習課文化財センター

令和元年度・2年度

事務担当
所長 稲村 博文
次長 岩崎 英樹
主査 福岡 貴之
調査担当
所長 稲村 博文

令和3年度

事務担当
所長 松元 敏幸
次長 山下 博文
主査 河野 賢太郎
主査 福岡 貴之
調査担当
次長 山下 博文
主査 河野 賢太郎
主事補 郷原 麻鈴

令和4年度・5年度

事務担当
所長 松元 敏幸
次長 河野 賢太郎
主任主事 藏ヶ崎 克
調査担当
次長 河野 賢太郎
主事 郷原 麻鈴

令和6年度

事務担当
所長 稲村 博文
次長 河野 賢太郎
主任主事 藏ヶ崎 克
調査担当
次長 河野 賢太郎
主事 郷原 麻鈴

令和3年度より岡崎古墳群検討委員会を設置し、指導・助言を受けて実施した。検討委員会については第3章で詳述する。

第3節 各年度の調査概要

1 令和元年度

地形測量図作成を業務委託により実施。盛土塚が残る最北の3号墳から最南の15号墳をカバーすることを最終目的にし、南側にあたる29,410㎡について実施した。

2月17日から3月3日 確認調査として4号墳南側で地権者の同意が得られた537㎡を調査した。遺構と考えられる土色変化を複数認め、土器がまとまって出土するなどした。遺構種類、規模については明らかにしなかった。

2 令和2年度

地形測量図作成を業務委託により実施。昨年度残りとなる北側48,263㎡について実施した。

2月1日から2月9日 確認調査として4号墳南側で地権者の同意が得られた127㎡を調査した。遺構と考えられる土色変化を複数認め、須恵器大甕や土器がまとまって出土するなどした。遺構種類、規模については明らかにしなかった。

3 令和3年度

9月29日 検討委員会を開催した。新型コロナウイルス感染症の影響で、橋本先生以外はリモートでの参加となった。福永先生に座長をお願いした。令和元年度、2年度の調査結果報告と3年度調査計画について指導・助言を仰いだ。

12月20日から2月28日 現状での盛土塚が確認できないエリアについて、消失墳の再発見を目的とした確認調査を実施した。

調査の結果、古墳周溝等を確認できず、消失墳の再発見には至らなかったものの、地下式横穴墓を多数確認することができた。確認した地下式横穴墓では玄室が崩落しているものも確認できた。

1月14日 文化庁近江主任調査官と県文化財課が現地視察を行った。

2月21日 現地指導 橋本先生 調査内容の説明を行い、調査方法、考え方についての指導・助言をいただいた。

4 令和4年度

9月29日 検討委員会を開催した。令和3年度の調査報告、周知の埋蔵文化財包蔵地としての岡崎古墳群の変遷について説明を行い、調査予定の変更について協議を行った。また、文化庁から提案のあった唐仁古墳群「附けたり」についても提示した。委員の先生方は「附けたり」では、岡崎古墳群と唐仁古墳群の関係性の説明が不十分ではないか等の意見をいただいた。

1月17日から3月24日 確認調査として5号墳の規模確認、10号墳～14号墳の真否確認を行った。いずれの古墳でも周溝は確認されなかったが、古墳ではないとする根拠としては不足との結論に至った。

3月13日 現地指導 橋本先生 調査内容の説明を行い、調査方法、考え方についての指導・助言をいただいた。

なお、このほか古墳をめぐるバスツアーを開催した。古墳入門編として、岡崎古墳群、塚崎古墳群、唐仁古墳群、横瀬古墳を職員の案内により見学するツアーである。今回は発掘現場の埋戻し前だったので、現場を見ていただくことができた。

また、申良歴史民俗資料室の展示を調査成果速報として一部更新した。

5 令和5年度

1月21日 検討委員会を開催した。令和4年度の発掘調査結果の説明を行い、それを踏まえた遺跡の現状について説明を行った。また、岡崎古墳群の評価として事務局案を提示したが、不十分との指導・助言をいただいた。

1月16日から2月27日 確認調査として令和元年度調査地の情報不足を補完するため再調査した。2基の古墳を復元し、古墳周溝を利用した5基の地下式横穴墓を確認した。また、閉塞部材に軽石製組合式石棺の蓋を用いる例を発見した。

2月17日 現地指導 橋本先生 調査内容の説明を行い、調査方法や考え方についての指導・助言をいただいた。

このほか、古墳をめぐるバスツアーを開催した。前回と同じコースをめぐり、古墳を知る機会を提供。参加記念品として岡崎18号墳出土壺のミニチュアを3Dプリンタで出力したものを配布

した。

このほか、串良歴史民俗資料室の岡崎古墳群に関する展示を一部変更した。

6 令和6年度

10月4日 検討委員会を開催した。令和5年度の調査結果を報告した。これまでの成果として、古墳2基の復元、地下式横穴墓群としてのゾーニングが可能であることを説明した。また、令和7年以降の計画についても提示した。これまでもまして厳しい御意見、指導助言をいただいた。

11月20日から12月1日 中高生向けとした生涯学習課主催イベント「大隅総文祭」の関連イベントとして、リナシティかのやギャラリーで「タイムトリップ！鹿屋の歴史再発見！」を開催。岡崎古墳群や近隣の古墳群の紹介、鹿児島県による発掘調査出土品の展示、民俗文化財までを網羅した。総数457名の来場者があり盛況となった。また、11月30日には橋本先生によるギャラリートークを実施し、46名の参加があった。ギャラリートーク当日はスタッフがミズラカチューシャにより仮装し、古墳時代をより感じてもらう試みを行った。また、アンケート回答者に記念品として手製のグッズを配布した。

このほか、古墳をめぐるバスツアーを開催。開催日を祝日に設定したところ、定員20名に対して80名を越す応募があった。これまでになく若年層の応募も多く見られた。今回も記念品として岡崎古墳群の出土品のミニチュアを予定している(執筆時)。

報告書作成の実施。令和元年度から5年度までの発掘調査の成果、検討委員会の検討、指導・助言をまとめ、総括報告書へ向けた中間報告書として刊行。

第2章 岡崎古墳群について

第1節 位置と環境

第1項 地理的環境

岡崎古墳群は鹿児島県鹿屋市串良町岡崎に位置し、大隅半島中央部の台地縁辺部に広がる。シラス台地上に形成され、平坦な頂部を持つが、東側は切り立った崖となっている。近くを串良川と肝属川が流れ、肝属平野の一部を形成している。平野は水稲耕作に適し、歴史的に水運が発展した地域でもある。

古墳群は20基からなり、肝属川下流域を一望できる。特に岡崎15・18・20号墳は台地縁辺部に並び、首長墳と考えられる。20号墳は台地先端にあり、広範囲の眺望が可能で、現在自生する植物がなければ視認性が高い。

第2項 歴史的環境

橋本先生による「大隅串良 岡崎古墳群の研究」(2008 鹿児島大学総合研究博物館)に詳細な記載がある。ここでは岡崎古墳群に特に密接な関係があると考えられる唐仁古墳群、横瀬古墳について概要を示す。

1 唐仁古墳群

唐仁大塚古墳群は、肝属平野中央部の古砂丘上に位置し、130基以上の古墳からなる最大の古墳群である。中心となる唐仁大塚古墳は、現存する最大の前方後円墳で、墳丘長140mを測るが、橋本先生の推定では154mに及ぶ。柄鏡形前方後円墳に分類され、墳丘には花崗岩の円礫が葺石として用いられている。竪穴式石室には刳拔式舟形石棺が納められ、副葬品の短甲の形式をめぐる、5世紀中葉～後期または中期初頭とする説がある。

この古墳群には他にも、全長57mの役所塚古墳、全長約4mの薬師堂塚古墳、直径35mの福留塚古墳、直径42mの向塚古墳などがあり、それぞれに葺石や埋葬施設が確認されている。これらの古墳は、古墳時代の特徴を示す貴重な遺跡群となっている。

2 横瀬古墳

横瀬古墳は、志布志湾に面する砂丘帯の後背地に築かれた前方後円墳で、標高6mの低地に位置する。近世後半には石棺や埴輪の存在が知られていたが、1916年に瀬之口伝九郎が考古学雑誌で紹介したことで考古学的に認識されるようになった。瀬之口は、円筒埴輪が二重にめぐり、菱形文をもつものや馬形・鳥形埴輪が存在すると伝えている。主体部は文政・明治期に盗掘され、内部に直刀や鎧、曲玉があったとされる。

鹿児島県教育委員会の発掘調査によると、現存の墳丘長は132mだが、復元すれば約140mとされ、九州で5番目の規模を誇る。周溝は幅12～23m、深さは1.5mあり、墳丘は削平が進んでいるが、後円部が前方部より1m高い。葺石の存在は不明確だが、木村幹夫はかつて露出していたと指摘している。

埴輪には円筒埴輪のほか、人物埴輪が伴い、成川式土器と共通する製作技法が見られることから、在地の土器製作者が埴輪生産に関与したと考えられる。また、朝鮮半島陶質土器系の出土が確認され、造り出し部での祭祀に関係していた可能性がある。主体部の詳細は不明だが、小規模で、中心埋葬とは別に複数回の埋葬が行われた可能性が指摘されている。

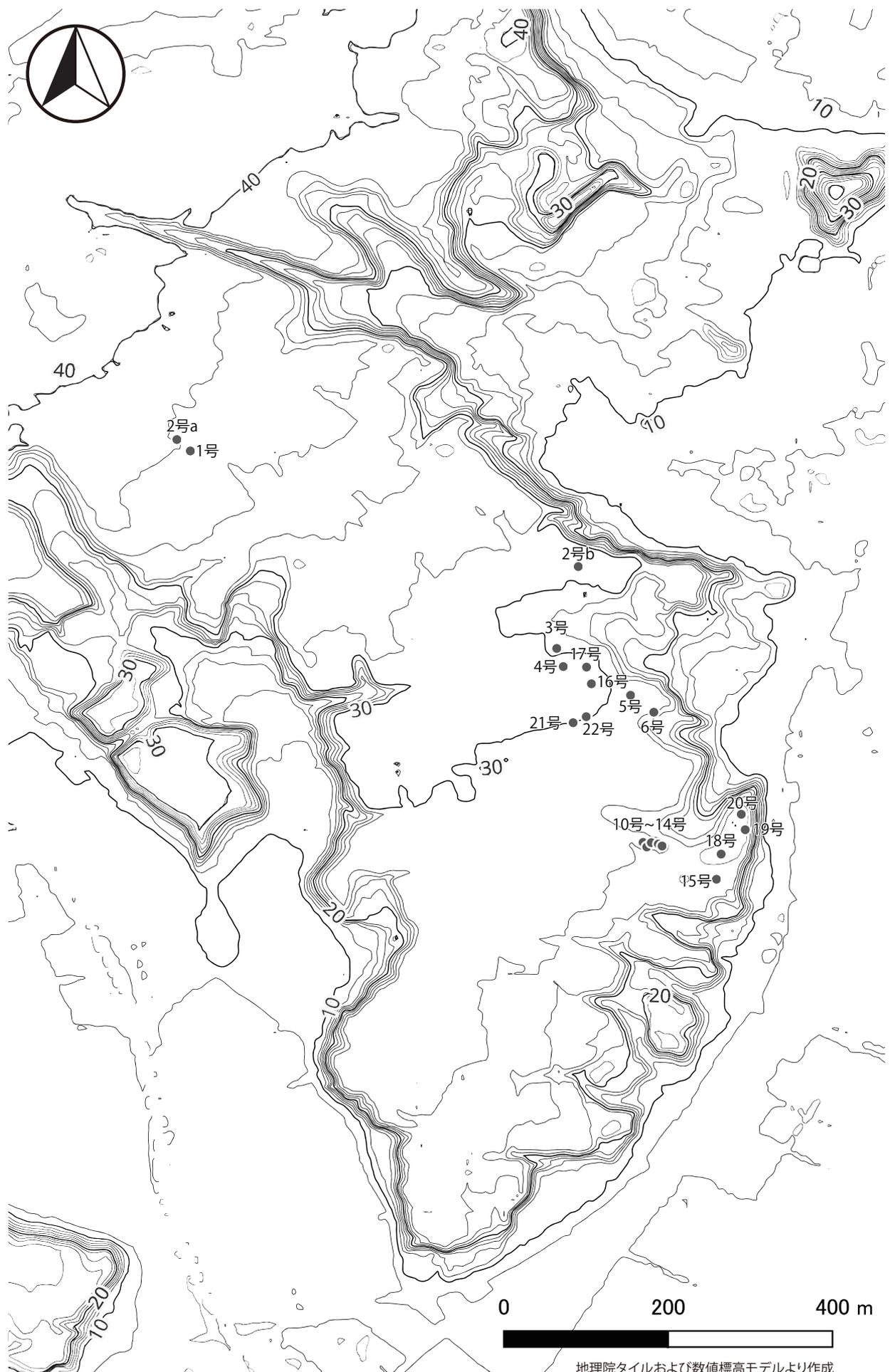
第2節 既往調査成果

岡崎古墳群に関する研究史、発掘調査歴と成果について概要として掲載する。

第1項 研究史

瀬之口伝九郎が考古学雑誌において、「九州南部に於ける地下式古墳に就て」(1919)、「大隅に於ける古墳の分布及び其概観」(1923)の中で、「肝属郡西串良村に於けるもの」として岡崎字和田馬場と字小塚での頻回の陥没や、自ら確認した2基の報告や、岡崎字西ノ下・牧ノ内・外園畑・東畑・小塚・竹の内・軽石塚・和田馬場などに、小円墳36基の存在を数えている。この範囲は現在盛土塚が確認できる岡崎古墳群の範囲より相当広く、現在認知されている20基よりも多い。広範囲にわたり古墳が残存していたことが伺える。

島戸貞良が「肝属平野の古代文化」(1931)に



地理院タイルおよび数値標高モデルより作成

第2図 古墳分布図

において西串良村岡崎の古墳群は俗に「四十九塚」といい、畑として開墾されているが多くの古墳が存在し、また地下式横穴墓の存在が注意されている。実際の数には不明だが多くの古墳が存在していたことが伺える。

第2項 発掘調査

岡崎古墳群ではこれまでも発掘調査が実施されてきた。1985年（S60）に行われた4号墳の発掘調査では、幅3～4mの周溝をもつ直径約20mの円墳であること、主体部が木棺直葬であることが確認された。また周溝内に地下式横穴墓が構築される例として日本で初めての発見となった。あわせて、4号墳周溝内で確認された3基の地下式横穴墓のうち、1号地下式横穴墓が調査された。1986年（S61）には10号～14号墳の測量及び範囲確認調査が行われた。いずれも小円墳で墳裾が接するような位置関係にあり、周溝などは確認されなかった。2023（R4）に再確認のため発掘調査を実施した。15号墳では1999年、2007年に串良町教育委員会による発掘調査が行われ、花崗岩製の箱式石棺が確認され、鉄製短甲・頸甲・肩甲のほかヒスイ製勾玉・碧玉製管玉などが出土した。2005年度の調査は先の調査でトレンチが設定されなかった墳丘南側を中心に発掘調査が行われ、円墳と考えられていた15号墳は、全長約26mの帆立貝形前方後円墳であることが推測された。また両クビレ部、前方部側面で地下式横穴墓合計3基が確認された。1988年（S63）に古墳の分布及び範囲確認のための調査が4号墳の東側で実施された。墳丘が削平された2基の古墳の周溝が地下式横穴墓とともに確認され、16号墳・17号墳と名付けられた。16号墳には4号地下式横穴墓が、17号墳には5号地下式横穴墓がそれぞれ周溝を切り込んで構築されている。18号墳から20号墳は鹿児島大学総合研究博物館 橋本達也により発掘調査が行われた。円墳である18号墳には4基（うち4号はレーダー探査による）の地下式横穴墓が築造されており、調査された1号、2号地下式横穴墓からは良好な鉄製品が出土し地下式横穴墓出現期の被葬者の性格を考えるうえで重要な資料となった。19号は土層断面の観察から、古墳ではないとされた。20号

墳はクビレ部で分断されており、別の2基の古墳と考えられていたが調査の結果約39mの前方後円墳であることが明らかとなった。これらの成果により岡崎古墳群に首長墓が存在することが明らかとなった。

第3節 周辺遺跡と周知の埋蔵文化財包蔵地 第1項 岡崎古墳群

周知の埋蔵文化財包蔵地としての岡崎古墳群の範囲について、既往の報告書等を参照すると、その時々で範囲が変更されている。

国指定を目指すにあたり整理を試みたが、各資料にみる範囲のいずれも範囲決定の経緯・根拠を明らかにすることができず、確実なものとすることができなかった。

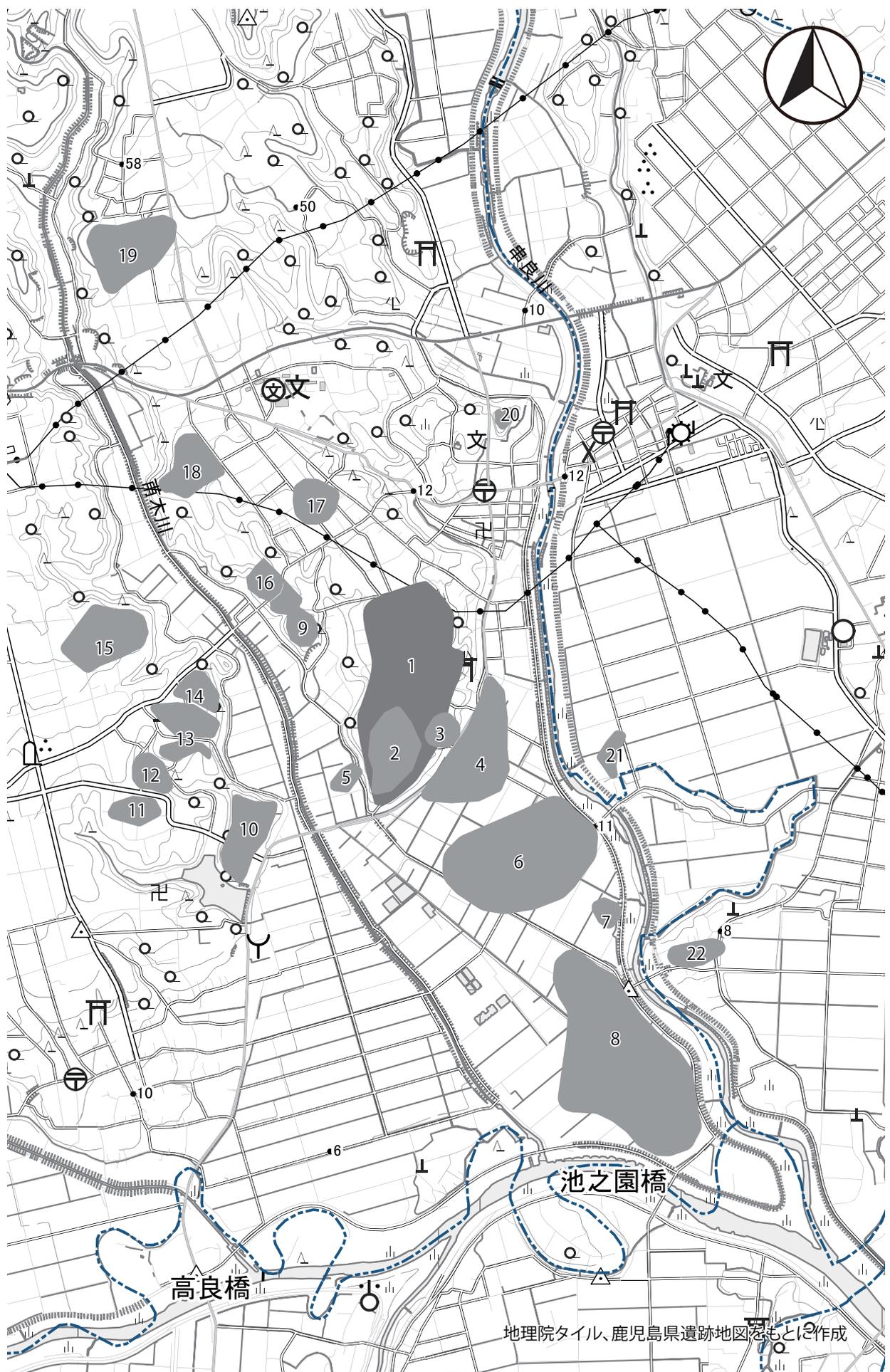
今回は最新の報告書である「岡崎古墳群・上小原古墳群・供養の上古墳群墳丘測量図・岡崎15号墳」（2007 鹿屋市教育委員会）に掲載の図を採用した。本図にも1号・2号墳が含まれないなどの課題が残る。

第2項 周辺遺跡

岡崎古墳群周辺に所在する遺跡を記載した。鹿児島県遺跡地図をもととした。周辺遺跡地図、周辺遺跡一覧を併せて参照してほしい。

第4節 古墳の現状(古墳カルテ)

岡崎古墳群にはこれまでに20基の古墳があったとされている。そして、令和5年度調査で新たに2基の古墳を追加した。ここでは、各古墳についての現状を把握するため、カルテとして掲載する。



地理院タイル、鹿児島県遺跡地図をもとに作成

第3図 周辺遺跡

番号	遺跡名	地形	現況	郡市町村名	街区大字名	遺跡の主な時代	備考
1	岡崎古墳群	台地		鹿屋市	串良町上馬場 ・岡崎・外園	古墳時代	
2	岡崎城跡	台地	山林	鹿屋市	串良町岡崎 城ヶ鼻		
3	北田ノ上古墳群	台地		鹿屋市	串良町岡崎 北田ノ上		
4	菅牟田	平地 台地	水田	鹿屋市	串良町岡崎 字菅牟田他	古墳時代、中世	
5	福重	平地	水田	鹿屋市	串良町岡崎 字福重	古墳時代、中世	
6	権現牟田	平地	水田	鹿屋市	串良町岡崎 字権現牟田他	古墳時代、中世	
7	白片	平地	水田	鹿屋市	串良町岡崎字 白片	古墳時代、中世	
8	西ノ丸	平地	水田	鹿屋市	串良町下小原 西ノ丸	弥生時代	
9	中村城跡	丘陵	山林	鹿屋市	串良町岡崎上		
10	稲村城跡	丘陵	山林	鹿屋市	串良町下小原	古墳時代、中世、中 世鎌倉、中世南北朝、 中世室町	
11	村迫	台地		鹿屋市	串良町下小原 村迫	弥生時代、古墳時代	
12	後藤迫	台地		鹿屋市	串良町下小原 後藤迫	縄文時代、弥生時代	
13	鍋池之上	台地		鹿屋市	串良町下小原 鍋池之上	古墳時代	
14	白寒水	台地		鹿屋市	串良町下小原 白寒水		
15	白寒水上	台地		鹿屋市	串良町下小原 白寒水上		
16	古園	台地		鹿屋市	串良町岡崎 古園	縄文時代、弥生時代、 古墳時代	
17	和田ノ上	台地		鹿屋市	串良町岡崎 字和田ノ上	弥生時代、古墳時代	
18	古棚	台地		鹿屋市	串良町岡崎 古棚	弥生時代、古墳時代	
19	富ヶ尾前			鹿屋市	串良町有里 富ヶ尾前		
20	鶴亀城本丸跡	丘陵	山林	鹿屋市	串良町岡崎	中世、近世	
21	吉元	平地		肝属郡 東串良町	川西吉元		
22	大園	平地		肝属郡 東串良町	池之原		

第1表 周辺遺跡一覧

岡崎古墳群古墳カルテ

古墳番号	指定	所在地					
1	無	鹿児島県鹿屋市串良町 浮石塚 -					
立地		墳形		遺存状況		地目(現状)	
台地		円墳		消滅		宅地	
全長(直径・辺長)	高さ	後円部径	前方部長	最大周溝幅	最大周溝深	埴輪	葺石
						不明	不明
埋葬施設			付随遺構	0		調査歴	無
記録等がある文献	有						
備考	正確な所在地不明						
図面等							
<p>鹿屋市 串良町 高島町</p> <p>① ②</p> <p>浮石塚</p>							
鹿児島県立埋蔵文化財センター 所蔵 1962 鹿児島県遺跡台帳 より							

岡崎古墳群古墳カルテ

古墳番号	指定	所在地					
2	無	鹿児島県鹿屋市串良町 浮石塚 -					
立地		墳形		遺存状況		地目(現状)	
台地		円墳		確認不能		宅地	
全長(直径・辺長)	高さ	後円部径	前方部長	最大周溝幅	最大周溝深	埴輪	葺石
5	1.8					不明	不明
埋葬施設		付随遺構		調査歴		無	
記録等がある文献		有					
備考		正確な所在地不明 串良町遺跡地図記載の地番は和田上遺跡と同一					

図面等



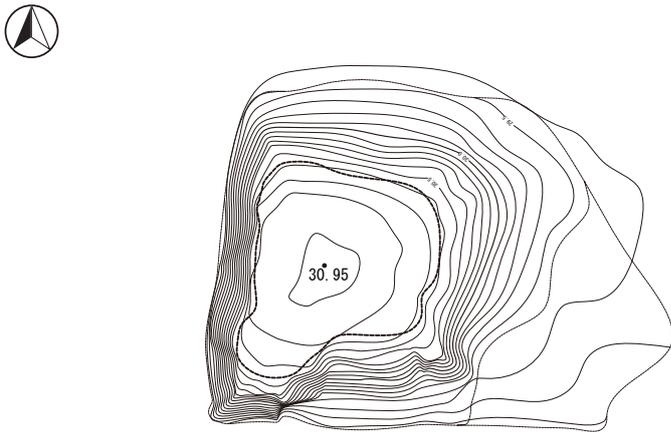
鹿児島県立埋蔵文化財センター 所蔵
1962 鹿児島県遺跡台帳 より

串良町遺跡地図 2002
串良町埋蔵文化財報告書(9)
に記載地番より

岡崎古墳群古墳カルテ

古墳番号	指定	所在地					
4	県	鹿児島県鹿屋市串良町 岡崎 3236-1					
立地		墳形		遺存状況		地目(現状)	
台地		円墳		5 割削平 一部残存		畑	
全長(直径・辺長)	高さ	後円部径	前方部長	最大周溝幅	最大周溝深	埴輪	葺石
20	2			4~5	0.5	無	無
埋葬施設	木棺直葬		付随遺構	地下式横穴墓 3基		調査歴	有
記録等がある文献	有						
備考							
図面等							

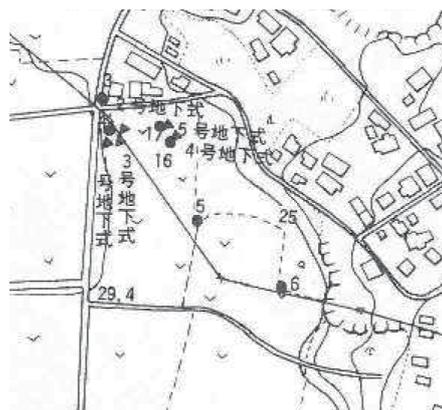
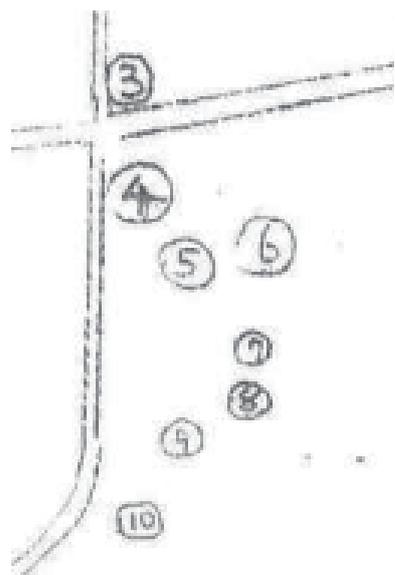
岡崎古墳群古墳カルテ

古墳番号	指定	所在地					
5	無	鹿児島県鹿屋市串良町 岡崎 3237-7					
立地		墳形		遺存状況		地目（現状）	
台地		円墳		7割以上削平		畑	
全長(直径・辺長)	高さ	後円部径	前方部長	最大周溝幅	最大周溝深	埴輪	葺石
5	1.9					無	無
埋葬施設			付随遺構			調査歴	有
記録等がある文献	有						
備考	令和4年のトレンチ調査では周溝は確認されなかった						
図面等							
							

岡崎古墳群古墳カルテ

古墳番号	指定	所在地					
6	無	鹿児島県鹿屋市串良町 岡崎 -					
立地		墳形		遺存状況		地目(現状)	
台地		円墳		消滅		畑	
全長(直径・辺長)	高さ	後円部径	前方部長	最大周溝幅	最大周溝深	埴輪	葺石
						不明	不明
埋葬施設		付随遺構		調査歴		無	
記録等がある文献		有					
備考		所在地不明					

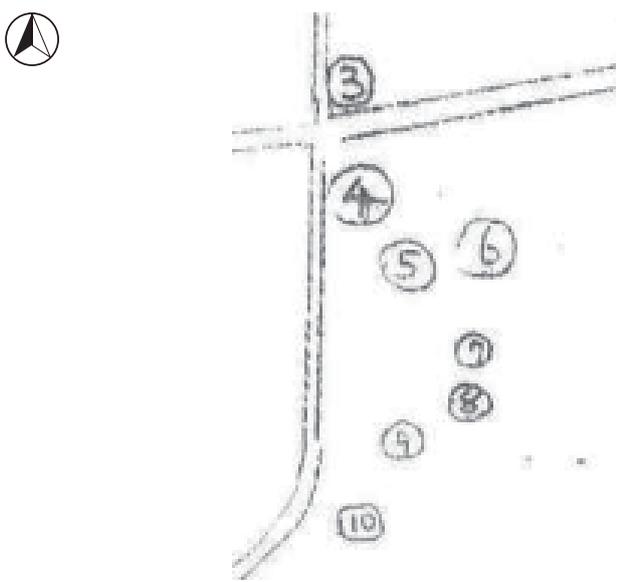
図面等



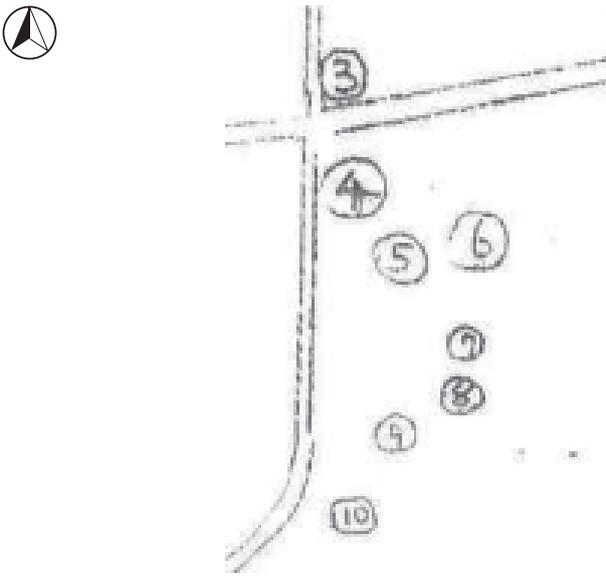
岡崎古墳群
1990 串良町埋蔵文化財発掘調査報告書(3)

鹿児島県立埋蔵文化財センター 所蔵
1962 鹿児島県遺跡台帳 より

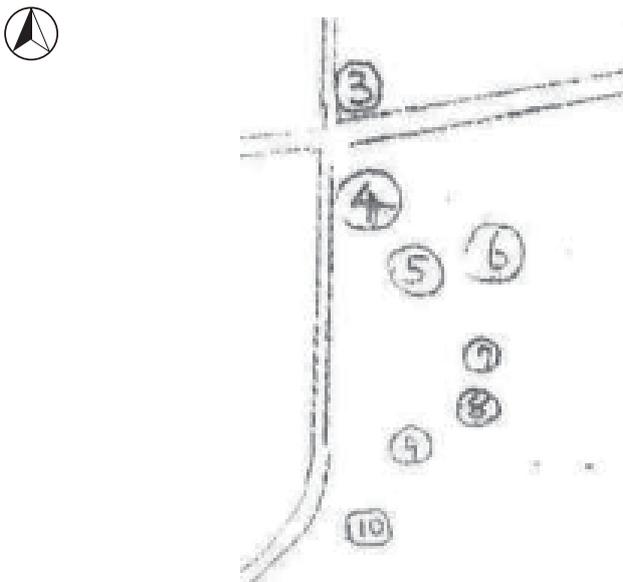
岡崎古墳群古墳カルテ

古墳番号	指定	所在地					
7	無	鹿児島県鹿屋市串良町 岡崎 -					
立地		墳形		遺存状況		地目（現状）	
台地		円墳		消滅		畑	
全長(直径・辺長)	高さ	後円部径	前方部長	最大周溝幅	最大周溝深	埴輪	葺石
						不明	不明
埋葬施設		付随遺構		調査歴		無	
記録等がある文献		有					
備考		所在地不明					
図面等							
							
鹿児島県立埋蔵文化財センター 所蔵 1962 鹿児島県遺跡台帳 より							

岡崎古墳群古墳カルテ

古墳番号	指定	所在地					
8	無	鹿児島県鹿屋市串良町 岡崎 -					
立地		墳形		遺存状況		地目(現状)	
台地		円墳		消滅		畑	
全長(直径・辺長)	高さ	後円部径	前方部長	最大周溝幅	最大周溝深	埴輪	葺石
						不明	不明
埋葬施設			付随遺構			調査歴	無
記録等がある文献	有						
備考	所在地不明						
図面等							
							
鹿児島県立埋蔵文化財センター 所蔵 1962 鹿児島県遺跡台帳 より							

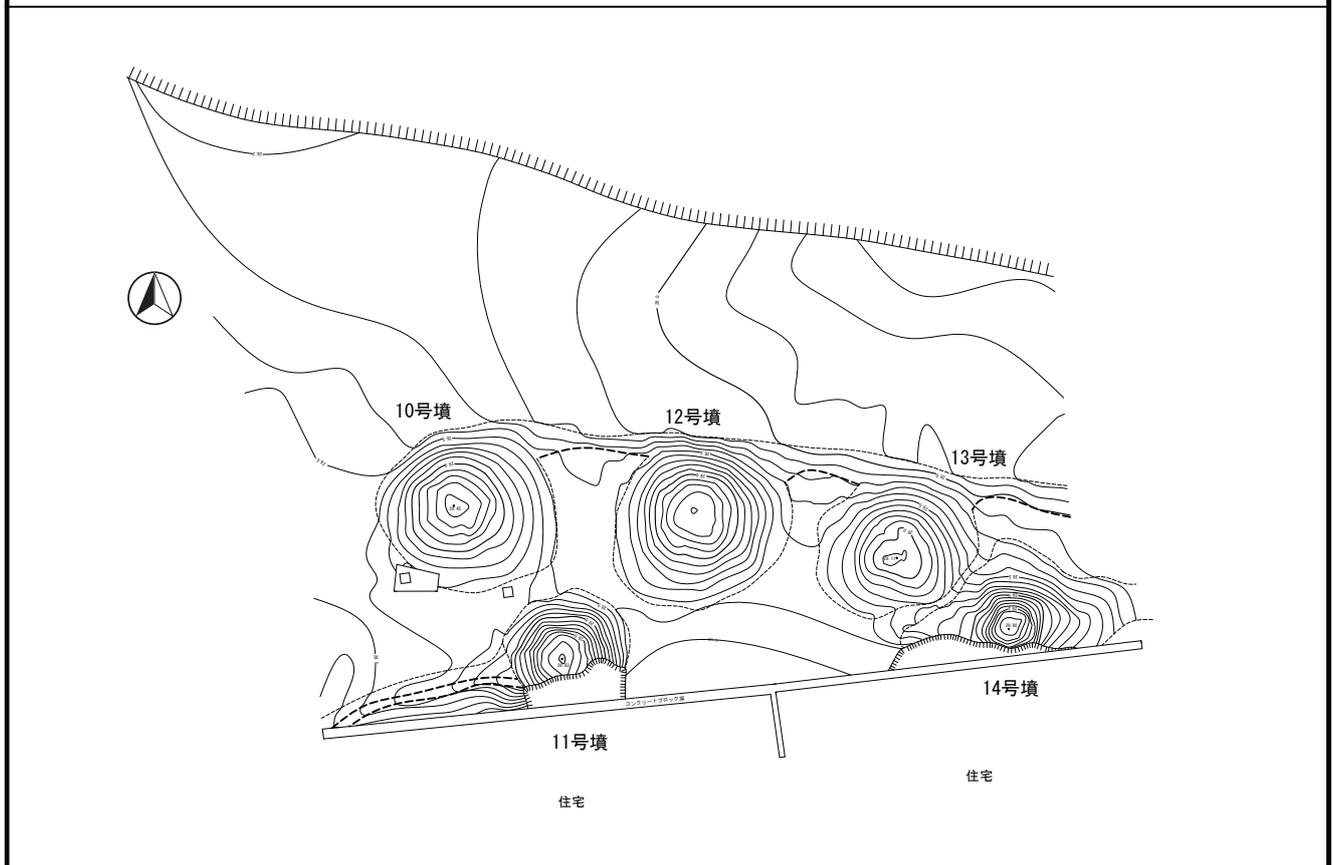
岡崎古墳群古墳カルテ

古墳番号	指定	所在地					
9	無	鹿児島県鹿屋市串良町 岡崎 -					
立地		墳形		遺存状況		地目（現状）	
台地		円墳		消滅		畑	
全長(直径・辺長)	高さ	後円部径	前方部長	最大周溝幅	最大周溝深	埴輪	葺石
						不明	不明
埋葬施設			付随遺構			調査歴	無
記録等がある文献	有						
備考	所在地不明						
図面等							
							
鹿児島県立埋蔵文化財センター 所蔵 1962 鹿児島県遺跡台帳 より							

岡崎古墳群古墳カルテ

古墳番号	指定	所在地					
10	無	鹿児島県鹿屋市串良町 岡崎 3245-1					
立地		墳形		遺存状況		地目（現状）	
台地		円墳		古墳ではない可能性		畑	
全長(直径・辺長)	高さ	後円部径	前方部長	最大周溝幅	最大周溝深	埴輪	葺石
6.7	0.8					無	無
埋葬施設			付随遺構		調査歴		葺石
					有		有
記録等がある文献		有					
備考							

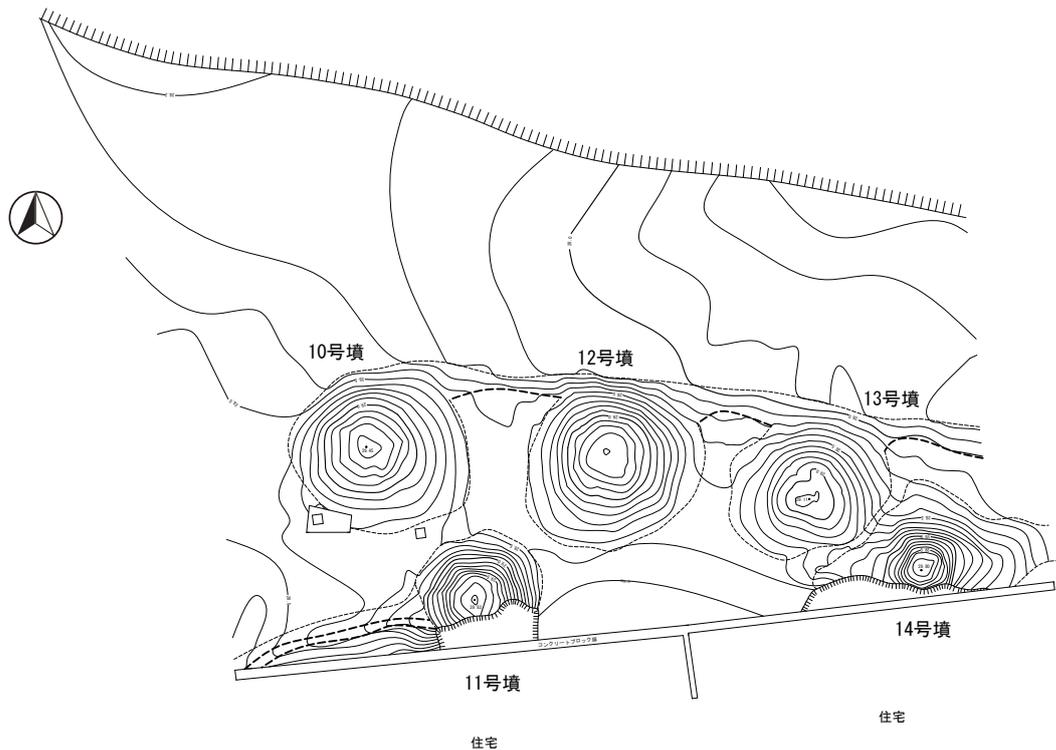
図面等



岡崎古墳群古墳カルテ

古墳番号	指定	所在地					
11	無	鹿児島県鹿屋市串良町 岡崎 3245-1					
立地		墳形		遺存状況		地目（現状）	
台地		円墳		古墳ではない可能性		草地	
全長(直径・辺長)	高さ	後円部径	前方部長	最大周溝幅	最大周溝深	埴輪	墓石
6.0	1.4					無	無
埋葬施設			付随遺構		調査歴		有
記録等がある文献			有				
備考							

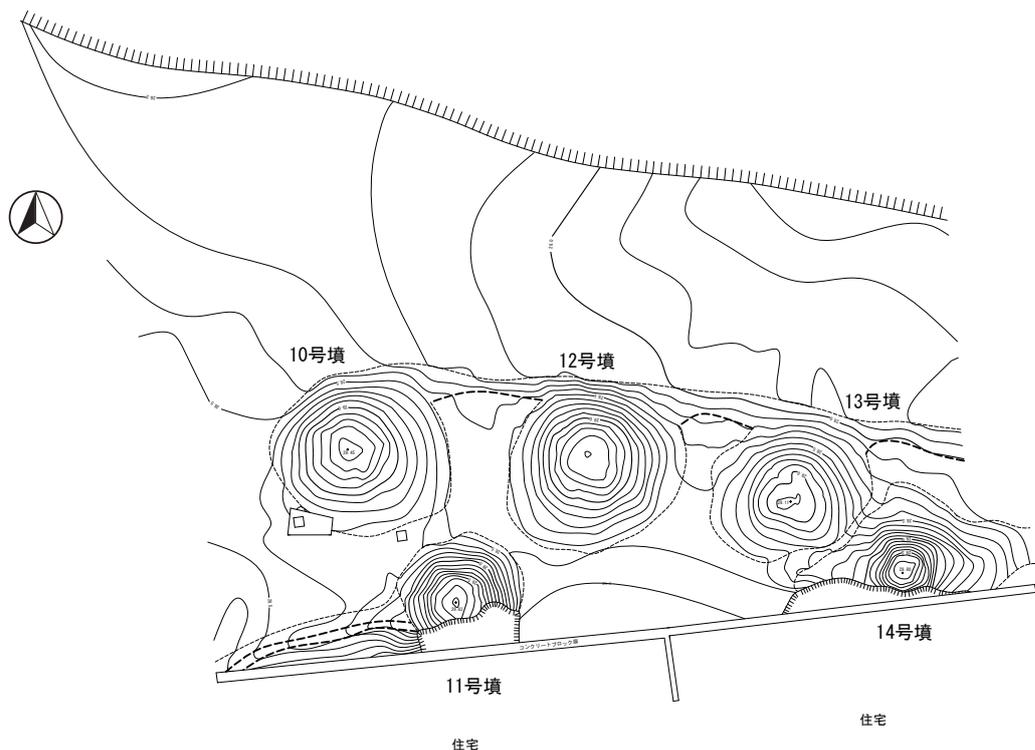
図面等



岡崎古墳群古墳カルテ

古墳番号	指定	所在地					
12	無	鹿児島県鹿屋市串良町 岡崎 3245-1					
立地		墳形		遺存状況		地目(現状)	
台地		円墳		古墳ではない可能性		草地	
全長(直径・辺長)	高さ	後円部径	前方部長	最大周溝幅	最大周溝深	埴輪	葺石
7.0	1.0					無	無
埋葬施設		付随遺構				調査歴	有
記録等がある文献		有					
備考							

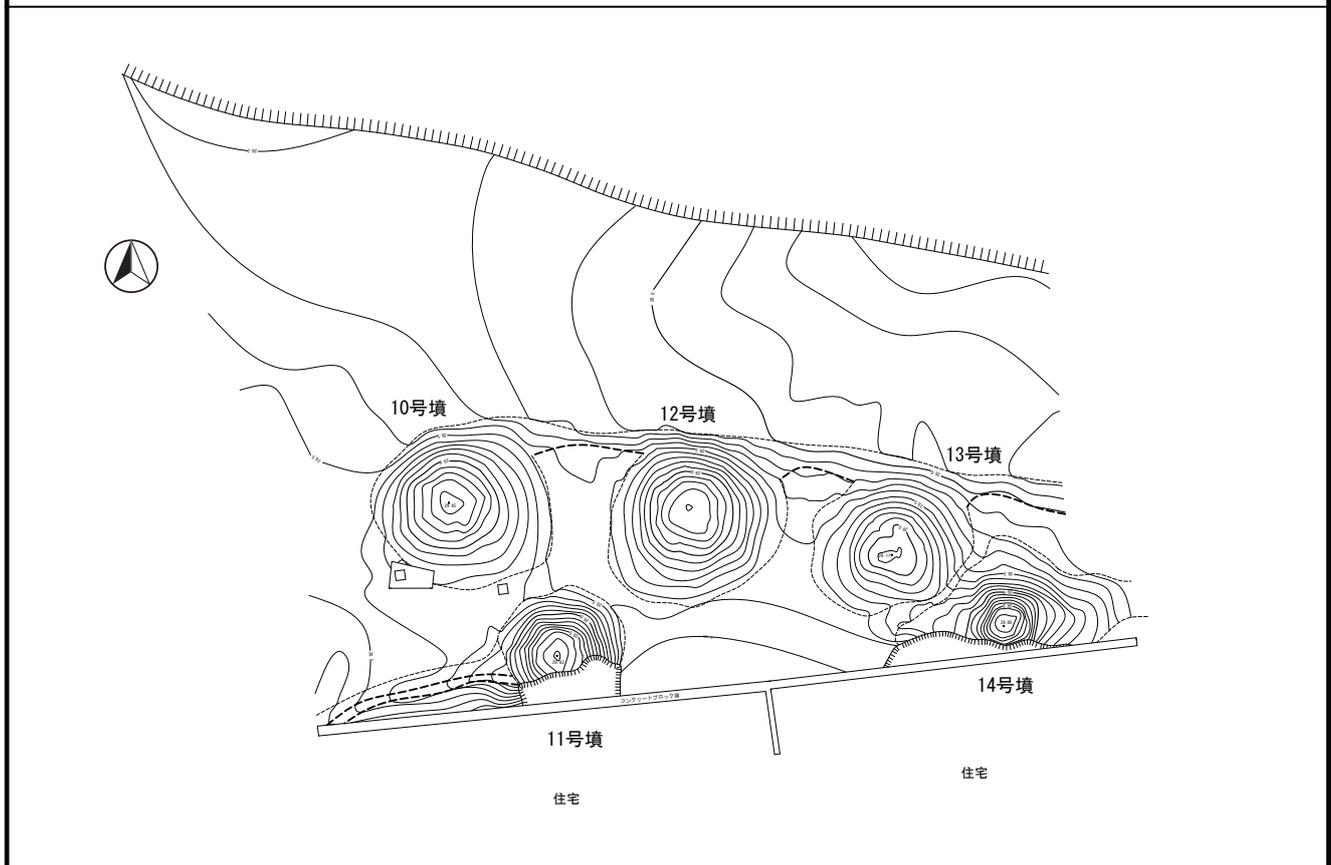
図面等



岡崎古墳群古墳カルテ

古墳番号	指定	所在地					
13	無	鹿児島県鹿屋市串良町 岡崎 3245-1					
立地		墳形		遺存状況		地目(現状)	
台地		円墳		古墳ではない可能性		草地	
全長(直径・辺長)	高さ	後円部径	前方部長	最大周溝幅	最大周溝深	埴輪	葺石
5.5	0.9					無	無
埋葬施設			付随遺構			調査歴	有
記録等がある文献	有						
備考							

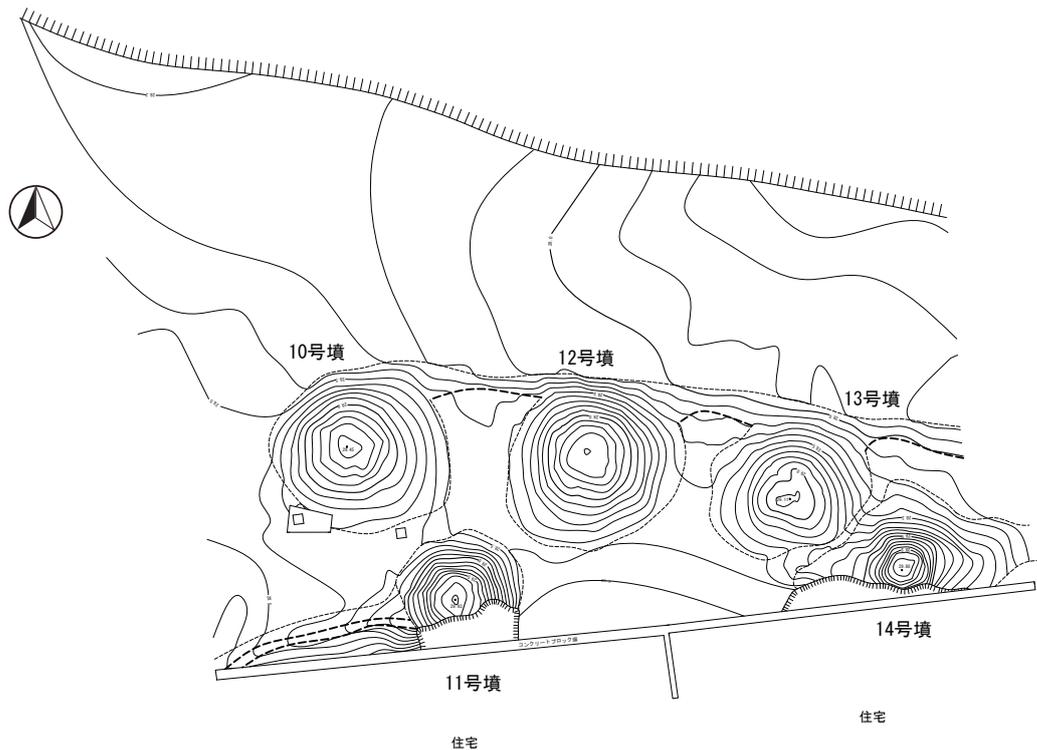
図面等



岡崎古墳群古墳カルテ

古墳番号	指定	所在地					
14	無	鹿児島県鹿屋市串良町 岡崎 3245-1					
立地		墳形		遺存状況		地目(現状)	
台地		円墳		古墳ではない可能性		草地	
全長(直径・辺長)	高さ	後円部径	前方部長	最大周溝幅	最大周溝深	埴輪	葺石
5.4	1.6					無	無
埋葬施設			付随遺構			調査歴	有
記録等がある文献	有						
備考							

図面等



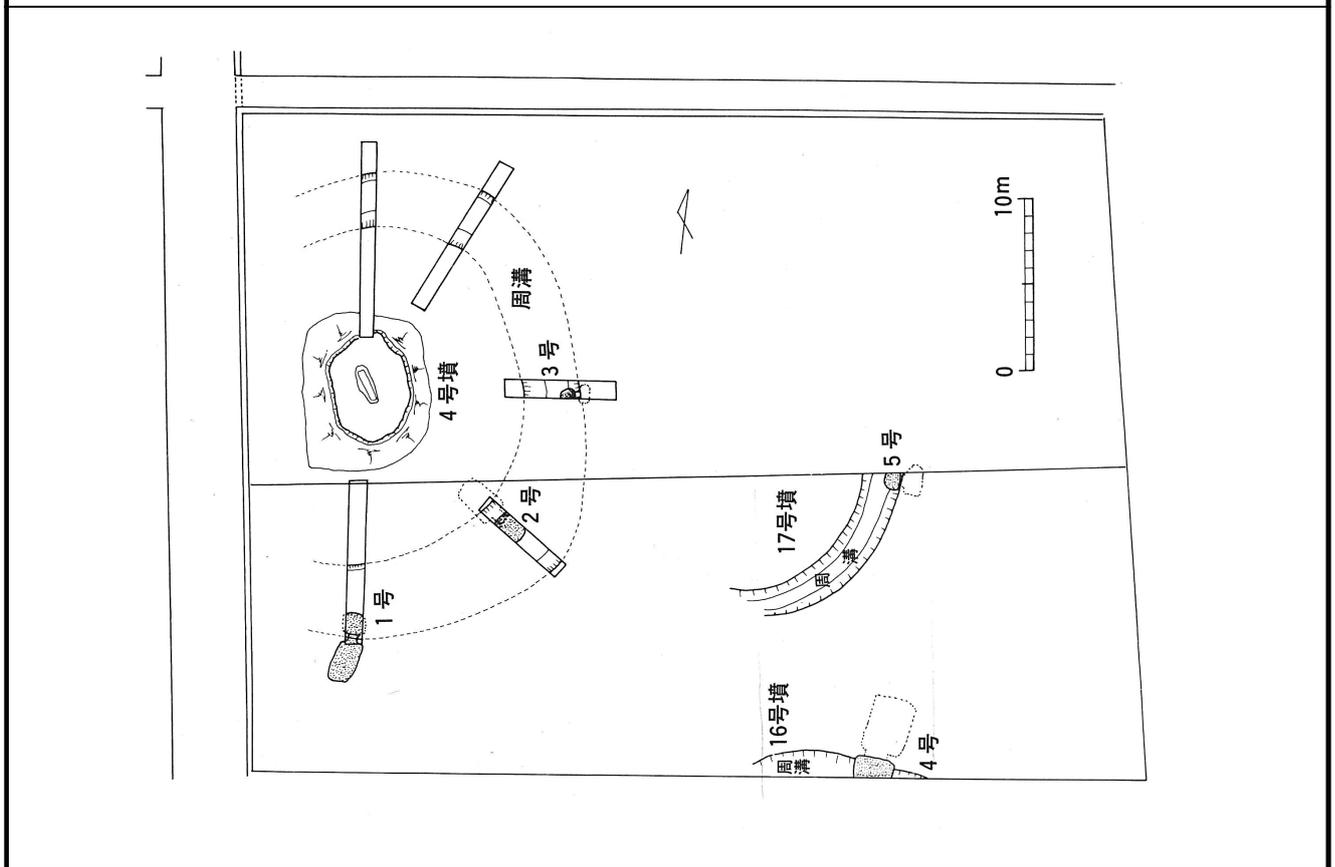
岡崎古墳群古墳カルテ

古墳番号	指定	所在地					
15	県	鹿児島県鹿屋市串良町 岡崎 3250					
立地		墳形		遺存状況		地目（現状）	
台地		前方後円墳		完存 良好		山林	
全長(直径・辺長)	高さ	後円部径	前方部長	最大周溝幅	最大周溝深	埴輪	墓石
25.5		21.0	5.2			無	無
埋葬施設	花崗岩製箱式石棺	付随遺構	地下式横穴墓 3基		調査歴	有	
記録等がある文献	有						
備考							
図面等							
							

岡崎古墳群古墳カルテ

古墳番号	指定	所在地					
16	無	鹿児島県鹿屋市串良町	岡崎	3236-6			
立地		墳形		遺存状況		地目(現状)	
台地		円墳		消滅		畑	
全長(直径・辺長)	高さ	後円部径	前方部長	最大周溝幅	最大周溝深	埴輪	葺石
24						不明	不明
埋葬施設			付随遺構		地下式横穴墓 1基	調査歴	有
記録等がある文献		有					
備考							

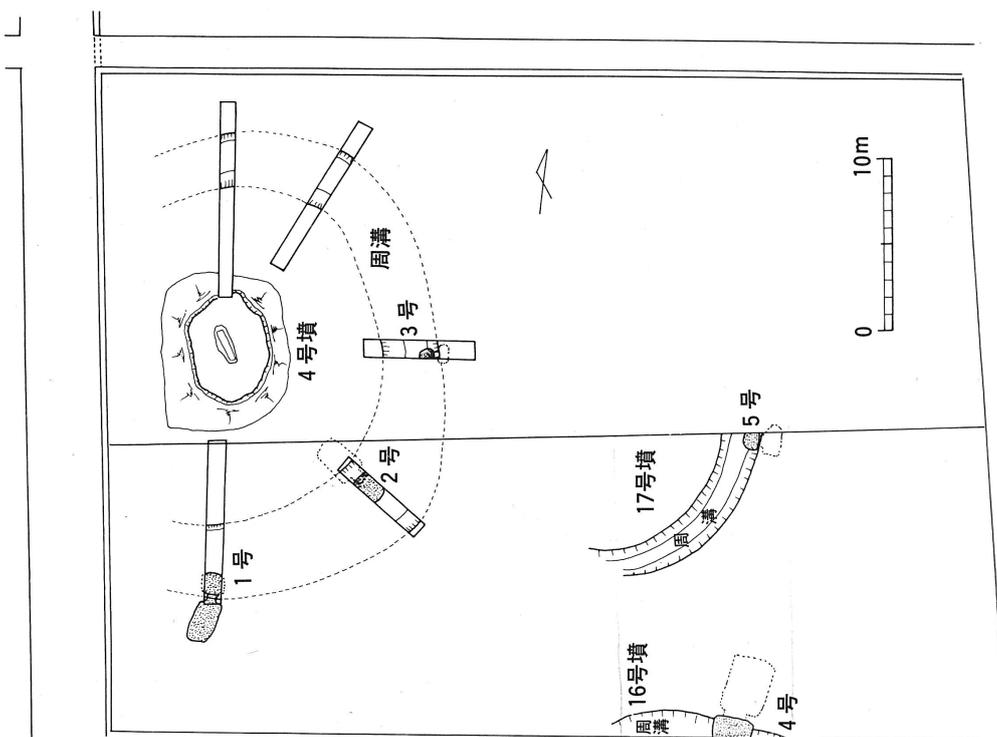
図面等



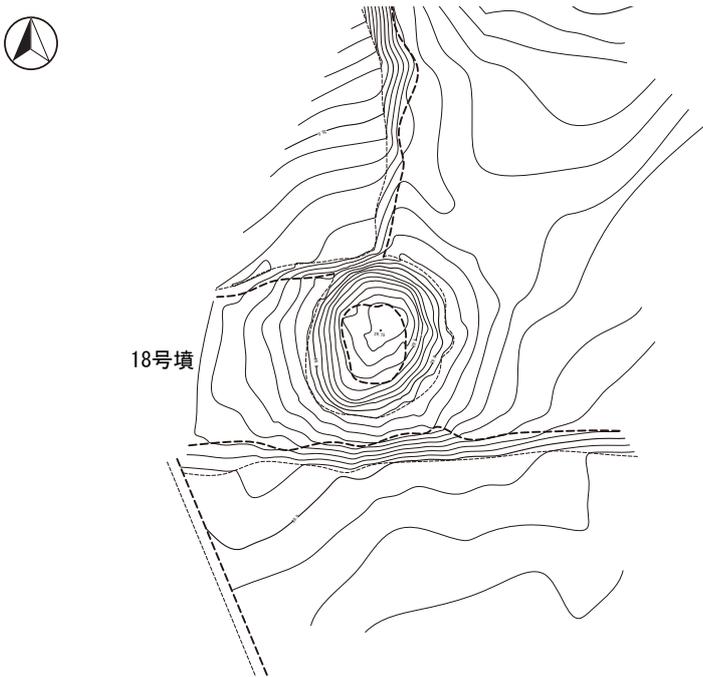
岡崎古墳群古墳カルテ

古墳番号	指定	所在地					
17	無	鹿児島県鹿屋市串良町 岡崎 3236-6					
立地		墳形		遺存状況		地目(現状)	
台地		円墳		消滅		畑	
全長(直径・辺長)	高さ	後円部径	前方部長	最大周溝幅	最大周溝深	埴輪	葺石
18				2.2	0.3	不明	不明
埋葬施設			付随遺構	地下式横穴墓 1基		調査歴	有
記録等がある文献		有					
備考							

図面等



岡崎古墳群古墳カルテ

古墳番号	指定	所在地					
18	無	鹿児島県鹿屋市串良町 岡崎 3248-2					
立地		墳形		遺存状況		地目（現状）	
台地		円墳		完存 良好		山林	
全長(直径・辺長)	高さ	後円部径	前方部長	最大周溝幅	最大周溝深	埴輪	葺石
18.8	1			2.4~2.8		無	無
埋葬施設			付随遺構	地下式横穴墓 3+1基		調査歴	有
記録等がある文献	有						
備考							
図面等							
							

岡崎古墳群古墳カルテ

古墳番号	指定	所在地					
19	無	鹿児島県鹿屋市串良町 岡崎 3248-1					
立地		墳形		遺存状況		地目（現状）	
台地		円墳		古墳ではない可能性		山林	
全長(直径・辺長)	高さ	後円部径	前方部長	最大周溝幅	最大周溝深	埴輪	墓石
8.2	1.28					無	無
埋葬施設			付随遺構			調査歴	有
記録等がある文献	有						
備考	古墳時代以降						
図面等							
<p>The figure is a topographic map of the area around the mounds. It shows contour lines representing the terrain. Mound 20 is a large circular mound with a central depression, located in the upper right. Mound 19 is a smaller circular mound located in the lower right. A north arrow is in the top left corner.</p>							

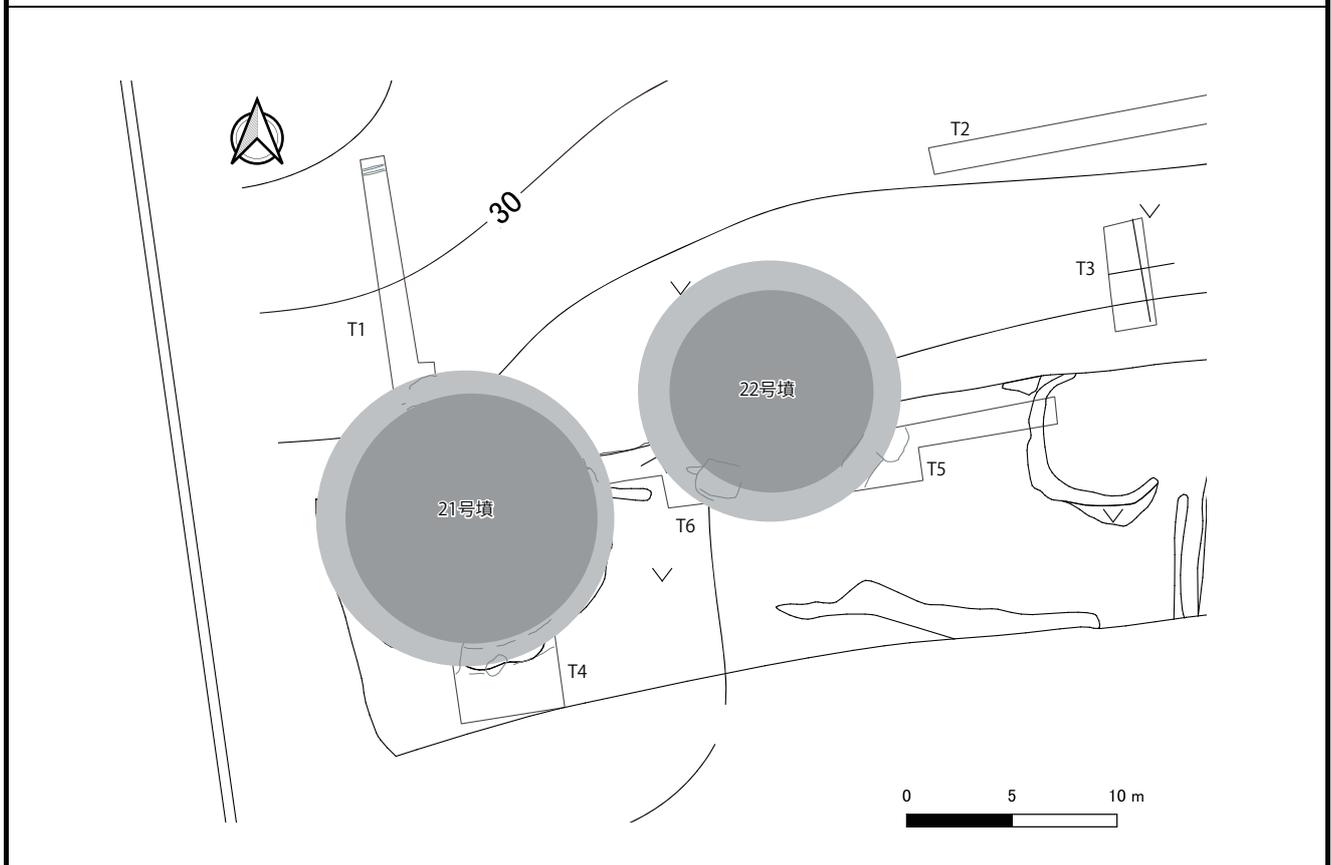
岡崎古墳群古墳カルテ

古墳番号	指定	所在地					
20	市	鹿児島県鹿屋市串良町 岡崎 1831-1					
立地		墳形		遺存状況		地目（現状）	
台地		前方後円墳		3割以下 半壊		山林	
全長(直径・辺長)	高さ	後円部径	前方部長	最大周溝幅	最大周溝深	埴輪	葺石
39	2	21.0	19.0			不明	不明
埋葬施設	後円部：墓壇 前方部：粘土槨		付随遺構			調査歴	有
記録等がある文献	有						
備考							
図面等							
<p>The figure is a topographic map of the site. It shows two ancient tombs, labeled '20号墳' (Tomb 20) and '19号墳' (Tomb 19). Tomb 20 is a large, roughly circular mound with a smaller circular feature in the center. Tomb 19 is a smaller, more rectangular mound located to the south and west of Tomb 20. The map uses contour lines to represent the terrain's elevation. A north arrow is located in the upper left corner of the map area.</p>							

岡崎古墳群古墳カルテ

古墳番号	指定	所在地					
21	無	鹿児島県鹿屋市串良町 岡崎 3233-1					
立地		墳形		遺存状況		地目(現状)	
台地		円墳		消滅		畑	
全長(直径・辺長)	高さ	後円部径	前方部長	最大周溝幅	最大周溝深	埴輪	葺石
14				2		不明	不明
埋葬施設			付随遺構	地下式横穴墓 3基		調査歴	有
記録等がある文献	有						
備考							

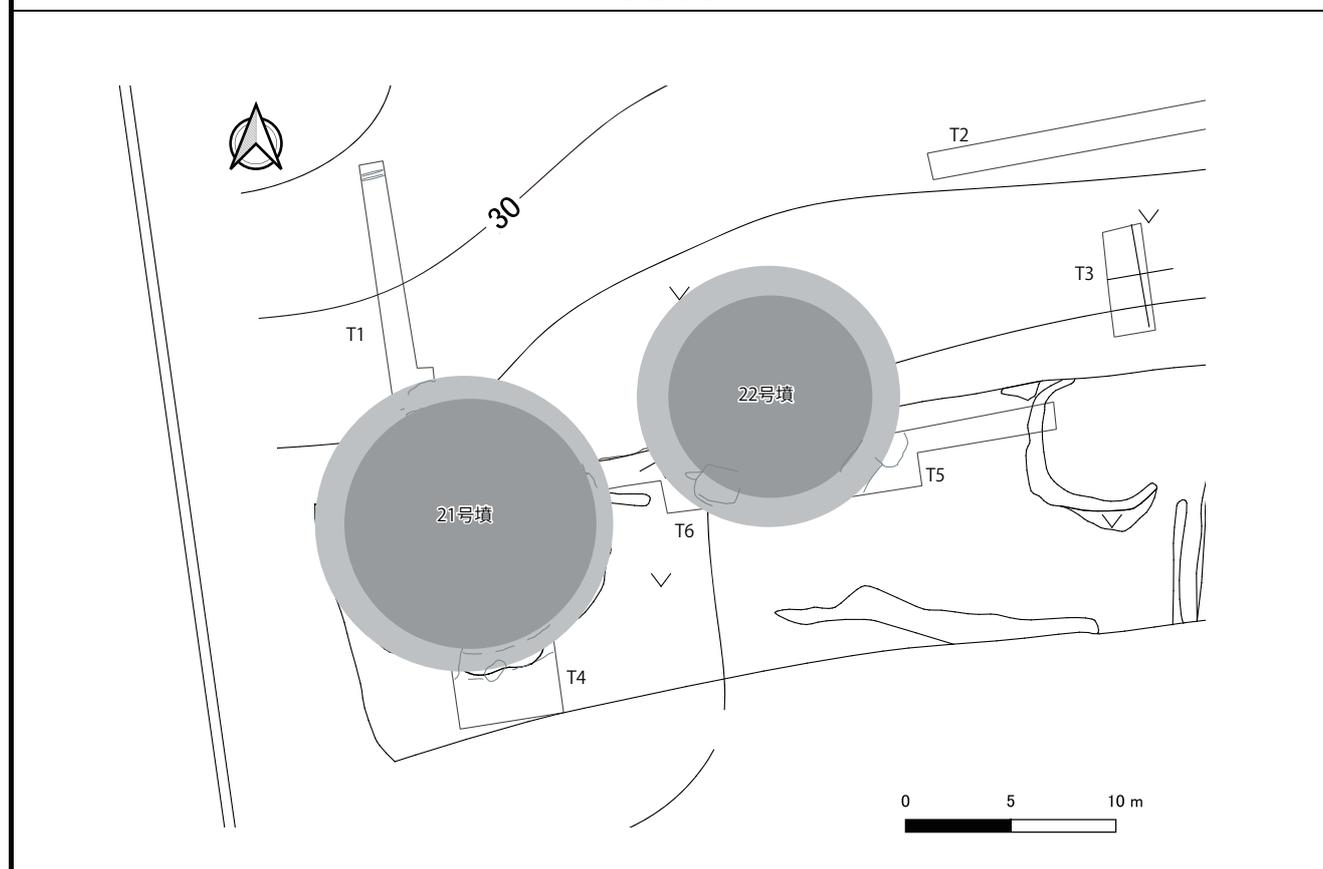
図面等



岡崎古墳群古墳カルテ

古墳番号	指定	所在地					
22	無	鹿児島県鹿屋市串良町	岡崎	3233-1			
立地		墳形		遺存状況		地目（現状）	
台地		円墳		消滅		畑	
全長(直径・辺長)	高さ	後円部径	前方部長	最大周溝幅	最大周溝深	埴輪	葺石
13				3		不明	不明
埋葬施設			付随遺構	地下式横穴墓 2基		調査歴	有
記録等がある文献	有						
備考							

図面等



第3章 検討委員会

第1節 設置目的と設置時期

岡崎古墳群の国指定史跡に向けた意見具申について検討するため、調査、総括報告書に関することについて協議検討を行うことを目的とした。

また、鹿屋市では令和元年度に事業を開始し、地形測量、発掘調査を実施したが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により元年度からの設置が困難であったため、令和3年度の設置となった。

元年度、2年度については専門的見地の補完を目的に適宜鹿児島県教育庁文化財課と協議を行いながら事業を実施した。

第2節 参加者

岡崎古墳群検討委員会委員として以下の先生方のお力添えをいただいている。あわせて、文化庁、鹿児島県教育庁文化財課、東串良町にオブザーバーとして参加をお願いしている。委員の先生は日本、南九州の古墳・古墳時代に精通しておられ、肝付町、東串良町でも古墳に関する検討委員を長年務められている等の経歴がある。

福永 伸哉	大阪大学大学院人文学研究科教授
柳澤 一男	宮崎大学名誉教授
橋本 達也	鹿児島大学総合研究博物館教授
池田 榮史	國學院大學研究開発推進機構 教授兼國學院大學博物館教授
禰亘田 佳男	大阪府立弥生文化博物館 館長

第3節 検討の概要

岡崎古墳群検討委員会では、委員の先生方から方針や考え方はもちろんのこと、具体的手法に至るまで多くの指導・助言をいただいた。その全てを掲載すべきところではあるが、ここでは議題とその結果について概要として記載する。

令和3年度

開催日 令和3年9月29日

開催場所 串良ふれあいセンター

議題

1 報告・説明

(1) 経緯

旧串良町文化財保護審議会の建議に始まる国指定を目指すに至った経緯説明

(2) 令和元～2年度の調査成果報告 調査結果報告

(3) スケジュール案

当初は4か年計画としていたが、6か年計画として再構築した。

【委員意見】

- ・6年でも短いのではないか。
- ・令和6年度刊行の報告書は「総括」ではない。

2 検討・協議

課題と課題解決

(1) 古墳群の範囲に係る課題

- ア 現在空白地帯となっている部分の取扱
過去には古墳が存在したとされるが、現状ではその姿が確認できないエリアについて。
- イ 想定している遺跡範囲の妥当性
現在塚がみられる部分を想定しているが、周知の埋蔵文化財包蔵地も変更が多く、正確性に疑義がある。

(2) 各古墳に係る課題

- ア 墳丘規模が確定していない(15号、20号)
岡崎古墳群を代表するであろう15号・20号墳の正確な規模が把握できていない。
- イ 消失墳の行方が分からない(1号、2号、6～9号)
既往資料から古墳位置の推定を試みたが、確たる証拠が得難く、位置特定が困難である。

ウ 古墳かどうか疑わしい小円墳群(10～14号、19号)

岡崎古墳群は20基の古墳番号が付与されているが、古墳ではない可能性がある小円墳が複数あり、古墳でない場合、構成資産が減少する。

【委員意見】

- ・古墳でないからといって保護しなくてよいわけではない。

3 地下式横穴墓の調査について

鹿児島県、宮崎県では地下式横穴墓は破壊調査が前提であるため、史跡指定を目指す中では玄室の調査が困難な状況である。

【委員意見】

- ・現状で調査が必要とは思えない。指定後でも必要に応じればよいのではないか。

(3) 課題解決を目指す調査方針

- (1) ア トレンチ調査による周溝確認
- (1) イ 追加指定に向けたトレンチ調査
- (2) ア 調査手法を検討の上、追加調査
- (2) イ 古記録、古写真等を検討し、場所を推定して、トレンチ調査等で確認
- (2) ウ 周溝確認のためのトレンチ調査

○課題とまとめ

- ・岡崎古墳群の本質的価値を確認する。
- ・それぞれの墳丘規模や古墳群の範囲を確定させる必要がある。
- ・国指定史跡へと意見具申する際、唐仁古墳群などと併せて指定を目指すことを主軸とする。
- ・報告書は令和6年度に刊行すること。

○対応等

- ・唐仁古墳群などと併せた指定を目指すため、東串良町にオブザーバー参加依頼

令和4年度

開催日 令和4年9月29日

開催場所 串良ふれあいセンター

議題

1 報告・説明

(1) 令和3年度調査結果

空白地帯となっているエリアで消失墳周溝は確認できなかったが、単独で構築される地下式横穴墓群を確認した。

(2) 遺跡範囲の変遷

令和3年度の検討委員会での報告に情報追加。岡崎古墳群1号墳・2号墳について地理的距離があるため、別古墳群として扱うこ

との提案を行った。

【委員意見】

- ・解決には至っていないが、県とも協力していくこと
- ・離れているから一体の古墳群ではないとは言えず、判断するには時期尚早である

2 検討・協議

(1) 調査予定変更及び令和5年度調査計画

10～14号墳の所有者から造成の意思申し出があったため、令和4年度の委員会で了承された調査計画を変更したい旨を説明。

【委員意見】

- ・調査したからといって壊していいことにはならないことを所有者に理解してもらう必要がある。

(2) 国指定を目指す枠組み

唐仁古墳群「附けたり」案を提示

【委員意見】

- ・唐仁古墳群と岡崎古墳群の関係性から考えると附けたりは不相応である。

(3) 10号～14号墳が古墳ではない

場合の取扱い

○課題とまとめ

- ・唐仁古墳群と岡崎古墳群は相互補完的な関係性があるので、文化庁が示した唐仁古墳群の附けたりとして岡崎古墳群を含めることは不適切ではないか。
- ・令和3年度の調査成果で、古墳周溝を利用せず単独で構築される地下式横穴墓で構成されるエリアがあることは岡崎古墳群の価値付けにも影響があり、単独指定も目指せる状況ではないか。
- ・古墳群のゾーニングを行う上で、令和元年以降に確認された周溝状遺構などが周溝であるかの確認と、16号・17号墳の規模確認、古墳の築造エリアの確認が必要。

○対応等

- ・10～14号墳の所有者に説明を行い、御理解

と御協力いただいた。

- ・鹿兒島県と周知の埋蔵文化財包蔵地についての協議を開始した。

令和5年度

開催日 令和6年1月21日

開催場所 申良ふれあいセンター

議題

1 報告・説明

(1) 令和4年度調査結果

5号墳の規模確認調査では、周溝が確認されず、埋葬主体も確認できなかった。規模確認はできず、古墳でない可能性も出てきた。

10号～14号墳の真否確認では、周溝は確認されず、古墳である確証は得られなかった。

(2) 調査結果を踏まえた遺跡の現状

仮に5号墳、10～14号墳が古墳でない場合、古墳群としての数は激減する。

2 検討・協議

(1) 岡崎古墳群の評価

本質的価値として事務局案を提示した。

【事務局案】岡崎古墳群では前方後円墳の築造に始まり、古墳周溝を利用した地下式横穴墓の築造が行われるようになり、地下式横穴墓が群集化していく。このことは古墳時代中期における多様な文化受容と展開という時代的特質を表し、古墳時代の地域間交流を象徴している。大隅半島地域に見られるこの変遷が同一古墳群内で展開される稀有な遺跡である。

【委員意見】

- ・少なくとも「大隅」ではなく、「南九州」を代表するほどの内容が必要

○課題とまとめ

- ・古墳と地下式横穴墓の数の把握が不十分ではないか。調査により数が増えているのなら、地下レーダー探査等を用いて数を確定する必要がある。
- ・令和4年度調査では、周溝の有無により古墳かどうかの判断をしているが、削平等により

必ずしも周溝が確認できるとは限らないので、別の手段を講じる必要がある。

- ・現状では意見具申は難しい。
- ・期間を含め計画の練り直しが必要である。
- ・情報発信が足りていない。

○対応等

- ・古墳と地下式横穴墓の数の把握を目的としたレーダー探査の検討
- ・市内イベント等での周知活動の拡大
- ・市広報誌での特集記事掲載
- ・申良歴史民俗資料室展示の更新

令和6年度

開催日 令和6年10月4日

開催場所 申良ふれあいセンター

議題

1 報告・説明

(1) 令和5年度調査結果

令和元年度調査区の再調査に伴い、古墳2基を復元した。

5か年にわたる調査で、古墳と地下式横穴墓がセットのエリア、地下式横穴墓群エリアにある程度整理ができたことを説明。

2 検討・協議

(2) 令和7年度以降のスケジュール

現在事務局が想定してきた岡崎古墳群の範囲（令和元年度・2年度地形測量分）において、消失墳、地下式横穴墓の数を把握するべく全域を対象としたレーダー探査を軸とする旨を説明。

また、過去の指導・助言を受け、周知を目的としたシンポジウム開催の計画を説明。

【委員意見】

- ・西側への広がりの可能性を優先すべき
- ・指定を目指す方向性でシンポジウムの内容は異なる。発想が安易ではないか。

○課題とまとめ

- ・6年度刊行の報告書は「調査」報告書であり、総括ではない（再確認）
- ・委員への積極的な情報提供を行うこと。

○対応等

- ・調査計画を見直し、西側への遺跡範囲の広がりについての確認を優先することとした。

鹿屋市岡崎古墳群検討委員会開催要綱

(趣旨)

第1条 岡崎古墳群の国指定史跡に向けた意見具申について検討するため、鹿屋市岡崎古墳群検討委員会(以下「委員会」という。)を開催することに関し必要な事項を定めるものとする。

(意見等を求める事項)

第2条 委員会は、次に掲げる事項について協議検討し、教育長に意見等を述べるものとする。

- (1) 岡崎古墳群の調査に関すること。
- (2) 岡崎古墳群の総括報告書に関すること。

(参加者)

第3条 教育長は、次に掲げる者のうちから、委員会への参加を求めるものとする。

- (1) 識見を有する者
- (2) 行政機関の職員
- (3) その他教育長が必要と認める者

(運営)

第4条 委員会の参加者は、その互選により委員会を進行する座長を定めるものとする。

(開催期間)

第5条 委員会の開催期間は、岡崎古墳群の総括報告書が完成するまでとする。

(庶務)

第6条 委員会の庶務は、教育委員会生涯学習課文化財センターにおいて処理する。

(その他)

第7条 この要綱に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、教育長が別に定める。

附 則

この要綱は、令和3年9月10日から施行し、岡崎古墳群の総括報告書が完成する日の属する年度の末日にその効力を失う。